

大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択) 東京農業大学 取組概要

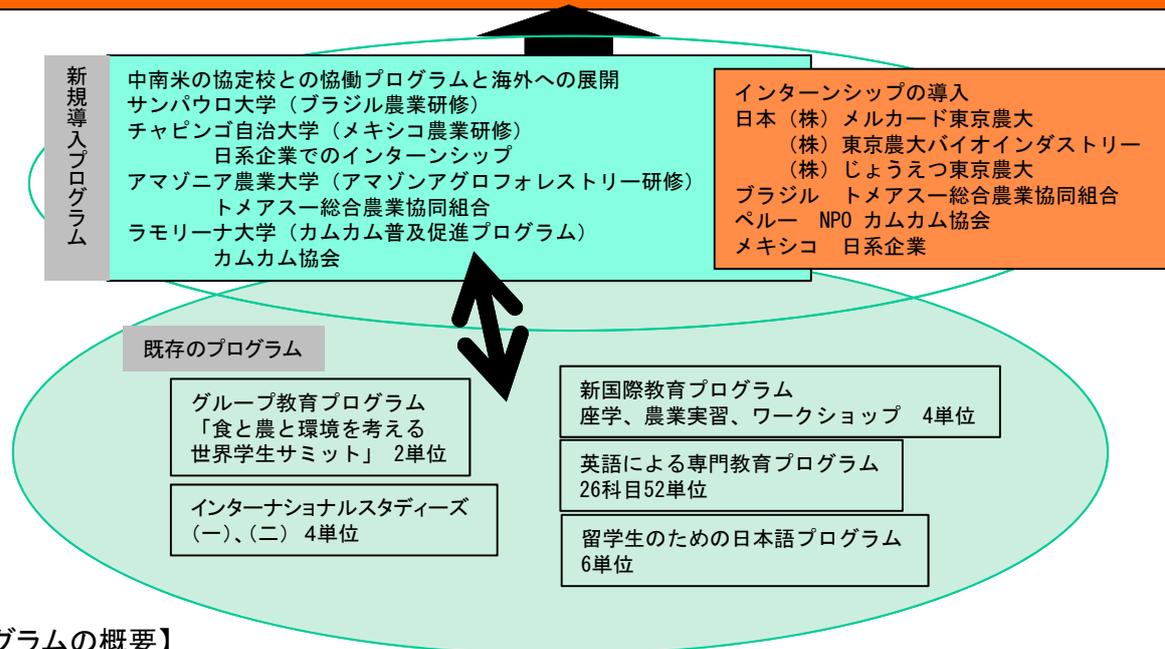
【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業

【事業の概要】

東京農業大学と中南米の農学系大学との連携を強化しながら、既に実施している交換プログラムに農学系インターンシップを加えて総合的実学教育プログラムを実施し、中南米地域で活躍できる開拓(開発)型グローバル人材を育成し、持続的な食糧生産をめざす日系企業への就職並びに農林水産業における起業家の実業を支援するものである。

中南米地域における食農および環境分野の実践的な専門家の育成



【交流プログラムの概要】

- ・派遣先協定校4大学への長期派遣(8・9月から6カ月～1年)・短期派遣(8・9月に2～3週間)・農学系2団体への長期(6カ月)及び短期派遣(1カ月未満)
- ・派遣先協定校4大学からの長期受入(6カ月～1年)・短期派遣(2週間)・有機農業、食品加工、商品開発と販売の会社への長期(6カ月以上)及び短期受入(1カ月未満)

【本事業で養成する人材像】

海外協定校での学びと農学系インターンシッププログラムを通して、中南米地域における食農分野および持続的な食糧生産に関する環境分野での実践的な専門家の育成をめざす。また、日本からの短期留学生は現地においてスペイン語もしくはポルトガル語の集中教育を受講させ、中南米からの留学生は本学で集中的な日本語教育を行って、相互の文化を理解した専門家を育てる。

【本事業の特徴】

- ・爆発的人口増加に伴う世界的食糧問題は人類が取り組むべき課題であり、中南米地域は食料供給基地として今後重要な役割を果たす。本学は農学・生命系総合大学として中南米の協定校と共に、現地に移住し活躍する卒業生の支援を受けて、短期・長期交換留学と農学系インターンシップを結び付けたプログラムを行うことにより、食・農・環境分野の実践的な専門家を育成する。

・【交流予定人数】

	H27							H28							H29									
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣			6			2		2			8			6		6			9			8		8
学生の受入			3			1		1			6			2		2			9			3		3
	H30							H31																
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe								
学生の派遣			9			8		8			9			8		8								
学生の受入			9			3		3			9			3		3								

A:アルゼンチン Bo:ボリビア Br:ブラジル Ch:チリ Co:コロンビア M:メキシコ Pa:パナマ Pe:ペルー

1. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業

■ 交流プログラムの実施状況



〈ブラジル派遣学生6名と引率者がパラ州にあるトマス農協を見学〉

本年度は、事業コーディネーター採択、プログラム構築、受入大学等との連絡調整、学生募集とプログラム実施、成果報告会開催を短期間で実施したにもかかわらず、完遂することができた。本事業が目指す中南米で活躍できる人材を育成する派遣・受入プログラムとして組み込んだ5大要素(①専門科目受講、②現地語研修、③現地学生との交流、④農学系インターンシップ、⑤農業・農学関連施設見学)を盛り込むことができた。特に、④農学系インターンシップ実施は、派遣プログラムでは海外支部校友会及び関係者の調整と受入先引受(ブラジル・トマス農協、ペルー・カムカム協会、メキシコ鈴木農場)において、受入プログラムでは大学発学生ベンチャー企業(株)メルカード東京農大、地域連携協定締結自治体の長野県長和町において、実学的な取組目標を達成した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

短期プログラム募集は多数の応募(24名)があり、国際教育専門委員会において10名を選考した。

○ 外国人留学生の受入

短期受入れプログラムは、各協定校に人数枠を提示し、各大学の選抜は時間的制約はあったため結果4名となった(計画5名)。

	H27															
	計画							実績								
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣			6			2		2			6			2		2
学生の受入			3			1		1			2			1		1

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムは、中南米で活躍できる人材育成プログラムとして実学的内容で構成されている。短期派遣プログラムにおいては、参加学生は事前研修、実地プログラム、事後報告を行い、科目担当者が参加学生の成果を見極め履修科目インターナショナル・スタディーズ(一)(2単位)で評価する。受入については、プログラム参加に対して修了証書を授与している。派遣元大学には単位化する仕組みづくりを進めるように要請している。ブラジル派遣プログラムは農学系複合型プログラムを充実させるためにはプログラム内容の多様性(受入大学2、校友会(サンパウロ、北伯)2、農協1)に対応する調整が必要であり、現地でのプログラム調整のため引率を兼ねた教員を派遣して実地調整を行った。次年度の課題は、ペルーとメキシコへも引率を兼ねたコーディネーターを派遣し実地調査を行うことと、各協定校からコーディネーターを受入れて、実地調査と全協定校間での全体調整会議を行い、さらに大学間ネットワーク形成を確実なものにすることを目標とする。また、地域連携協定先の長野県長和町での農村体験では日本の農業農村を学ぶだけでなく、長和町役場で報告会を行い、参加学生は体験を通じて地域振興のために意見を述べたことは実学的学習機会となった。3月に開催した成果報告会(事業報告・帰国報告)では他大学出席者からプログラム内容充実度について異口同音に質が高く充実したプログラムであると評価を得た。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事業コーディネーターは英語ネイティブであり、各協定校大学との連絡を円滑に行うだけでなく、受入学生の対応を行った。派遣学生の事前学習では本学外国人留学生を学生チューターとしてスペイン語とポルトガル語の勉強会を行った。また、チャピゴ自治大学(メキシコ)学長が本学高野学長を表敬訪問され、本事業を両大学で推進するため双方での受入れ便宜を図ること確認した。また、中南米への派遣は治安、衛生面でのリスクがあり、事前学習では、危機管理の講習及び予防注射の接種の推奨を行った。さらに、派遣・受入ともに学生の参加促進を図るため、渡航費助成を行った。これは募集期間が短いにもかかわらず、関心がある学生が経済的要因で機会を逃すことなく参加できることにつながったため、継続して実施する。次年度はプログラム担当者としてメキシコ人を採用し、協定校との連絡調整、協定校学生受入にあるとともに、参加学生の事前語学研修として、学内でSpanish Caféを定期的に行う計画である。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

本事業の浸透・促進を図るため、農大「世界展開力強化」ウェブサイトを上げ上げた。コンテンツには参加学生報告書を含み、意義等が理解できる構成となっている。このサイトは4カ国語(日・英・西・葡)で制作した。その意図は国内広報用としての活用に留まらず、中南米協定校大学における活用、さらには英語圏外である中南米への発信することを目的としている。また、パンフレット(日・英)を制作し事業推進広報用として活用した。次年度はウェブサイトの充実を図り、フェイスブック等のSNSメディアにより情報発信を試みる。

■ 特記すべき事項等

世界展開力事業は、本学の強みを活かした中南米における人材育成事業であり、継続事業として公募要領のとおり、毎年度10%遞減した予算額で申請し採択された。しかし、採択後にこの申請額に対して20%削減していくとの連絡を受けた。適正な申請額に対して毎年1/5の補助金額の削減では本事業を申請計画通り実施することが年を重ねる毎に困難になることをご理解いただきたい。本プログラムは非常に有益なものであり、海外協定校から短期受け入れプログラムに参加した学生4名のうち2名は、日本の大学院・学部への進学を希望している。本事業のH27短期派遣プログラムに参加した本学参加学生の3名が長期派遣プログラム(半年・1年)に参加する予定であり、短期と長期とを組み合わせたプログラムの相乗効果が早くも現れている。また多数の学生がスペイン語・ポルトガル語を継続的に学びたい等、参加学生に将来の方向性を与えるプログラムとなっている。



〈受入学生4名の修了証書授与式〉

2. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業

■ 交流プログラムの実施状況

協定校: サンパウロ大学(ブラジル)、アマゾン農業大学(ブラジル)、ラ・モリーナ国立農業大学(ペルー)、チャピンゴ自治大学(メキシコ)



〈世界学生サミット〉



〈ラテン・アメリカンカフェ〉



〈トマス総合農業協同組合で
インターンシップ、ブラジル〉



〈株式会社メルカード東京農大でインターンシップ〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

派遣・受入ともに、①協定校における専門科目受講、②現地語(派遣はスペイン語、ポルトガル語、受入は日本語)研修、③現地学生との交流、④フィールドから流通までを総合的に体験する農学系インターンシップ、⑤農学関連施設見学の5要素を含む人材育成プログラムにより、「農」の理論(①)、「農」の発信力(②、③)及び「農」の実践(④・⑤)を体得し、将来的に中南米と日本との架け橋となる専門家の育成を目指した。

○ 日本人学生の派遣

- ・出発前オリエンテーション(短期及び長期)でプログラム内容、任意予防接種、海外旅行保険、滞在先での注意事項、出入国の情報、留学への心構えなどについて受講した。
- ・派遣先大学では専門科目の受講、現地語の研修、現地学生との交流に参加した。
- ・各国の東京農業大学校友会海外支部がアレンジするインターンシップ実習及び農業関連施設視察に参加した。

○ 外国人留学生の受入

- ・短期留学:世界学生サミットに参加し、世界中から参集した学生達と農と食と環境に関する諸問題と解決策について議論を展開した。
- ・長期留学:研究室での専門実習、英語による専門教育プログラムの科目を受講した。日本語チューターから日本語を学んだ。大学発学生ベンチャー企業株式会社メルカード東京農大と環境修復保全機構でインターンシップを実施した。

〈中南米版〉

	H28															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣			8			6		6			5			8		5
学生の受入			6			2		2			4			3		2

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・8月に教職員コーディネーターが各短期派遣プログラム(ブラジル、メキシコ、ペルー)を引率し、安全で効果的なプログラムが実施されているか確認。訪問中、各協定校のプログラム担当者との打ち合わせを行い、本事業の概要と目的を再確認しながら昨年度のプログラムの反省点・改善点について協議した。
- ・10月に各協定校のプログラム担当者が本学を訪問し、改善点について協議し、取組体制や単位互換制度等の互いの大学の情報交換を行った。
- ・文部科学省中教審大学分科会において論点整理された、大学教員の質の保証・向上のうち、大学教育のグローバル化への対応として取組が求められる項目(短期交流プログラムの推進、海外インターンシップの積極的展開、国内外の学生を問わない学生支援の整備、大学の国際展開)のすべての要素を含む本事業は、本学のグローバル化に向けた枠組みを形成した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・本学学生の派遣については長期、短期とも選抜後にフルサポート(前年度報告書確認、プログラム確認、履修、危機管理、ビザ手続きなど)のオリエンテーションを行い、万全に準備を整えることにより、現地でスムーズな行動ができた。
- ・留学説明会と帰国報告会を開催し、留学希望者の目的意識を高めた。
- ・本学では毎週ラテン・アメリカンカフェを開催し、日本人学生と中南米からの留学生が互いの文化と言語を教え合う交流の場を設けている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

- ・本学の世界展開力強化事業ホームページに新しいページ(研修内容と中南米の農業)を追加し、今年度の活動報告も載せた。
 - <http://tenkai.nodai.ac.jp> (4か国語対応:日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語)
- ・Facebookページを公開し、長期派遣と長期受入学生が留学期間の様子を定期的に発信している。
 - <https://www.facebook.com/NodaiReinventingJapan/>

・公開留学報告会を開催し、本学の学生、教職員及び他大学関係者を招待した。短期派遣学生及び長期受入学生が留学の体験をプレゼンし、国際協力センター長及び副センター長が本事業の成果報告を発表した。

■ 特記すべき事項等

- ・2016年に創立125周年を迎えた本学と中南米の関わりが深いことから、本学学長がブラジル訪れ、協定校(サンパウロ大学・アマゾン農業大学)と農業分野での交流深化について協議するとともに、サンパウロ、ベレン、トマスで活躍するブラジル校友と懇親を深め、南米移住100年余年の歴史と本事業の重要性を再確認した。
- ・平成27年度及び平成28年度の短期派遣プログラムに参加した学生の内、各2名が中南米の農業についてさらに学ぶ為次年度長期派遣学生として参加している。

3. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業

■ 交流プログラムの実施状況

協定校:サンパウロ大学(ブラジル)、アマゾン農業大学(ブラジル)、ラ・モリーナ国立農業大学(ペルー)、チャビンゴ自治大学(メキシコ)

5要素を含む人材育成プログラム:①協定校における専門科目受講、②現地語(派遣はスペイン語、ポルトガル語、受入は日本語)研修、③現地学生との交流、④フィールドから流通までを総合的に体験する農学系インターンシップ、⑤農学関連施設見学



〈ピラルク養殖池の管理、ペルー〉 〈コーヒー農園見学、メキシコ〉

〈派遣・受入学生の交流会〉

〈世界学生サミット、台湾〉

〈植物工場でインターンシップ、日本〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

短期:中南米協定校4校に15名学生を派遣した。学生交流の一環として、各大学で日本文化ワークショップを行い、相互の文化について理解を深めることができた。本学校友会よりインターンシップ先を調整して頂き、中南米諸国ならではの農法について学んだ。

長期:中南米協定校から10名の学生を本学のヴィジティング学生として一学期間受け入れた。「英語による専門教育プログラム」の科目受講、日本語の集中教育、研究室で実習、及び農業関連インターンシップがプログラムに組み込まれた。

○ 外国人学生の受入

短期:プログラムは二部に分かれており、第一部は国立中興大学(台湾)で開催された世界学生サミットに参加し、18カ国から参集した学生達と農と食と環境に関する諸問題と解決策について議論を展開した。第二部は東京を拠点としたNPOで環境修復保全に関連するインターンシップに参加した。

長期:4名中2名が短期派遣プログラム経験後に長期派遣プログラムに挑んだ。出発3ヵ月程前からスペイン語とポルトガル語が堪能なプログラム担当者より現地語集中教育を受けた。派遣先大学では授業を受講しながら、インターンシップ先を独自で探し出した。

<中南米版>

	H29															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣			9			8		8			8			6		5
学生の受入			9			3		3			9			20		3

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 国際協力センター及び国際教育専門委員会が審査機関として短期及び長期派遣プログラム参加者の選考会を実施した。目的意識が高い学生を派遣する為に、選考会の審査資料として留学の目的について作文を提出させた。長期学生は留学中計4回の報告書を提出し、内容がプログラムの趣旨に沿っているか国際教育専門委員会がその都度確認し、必要であればアドバイスを提供した。短期学生は帰国後に報告書を提出する事により科目の「インターナショナル・スタディーズ(二)」の2単位が付与され、長期学生は派遣先大学で修得した単位を本学の「他大学等での修得単位」として認定した。
- 受入プログラムは各協定校の基準により選考された。来日前の留学目的についての作文と帰国後に報告書の提出を義務化した。学生からの意見を参考に今後のプログラム内容の充実を図る事とした。短期学生は世界学生サミットで研究内容を発表した事により科目の「Group Approach」の2単位が付与され、長期学生は本学の成績証明書が発行された。
- 9月に各協定校の担当者と本事業の改善点について会議を行った。特に目標交換人数を確保しながら質の高い学生を派遣する為の選考方法について意見を交換した。また、毎年減額される補助金額の対応や、事業終了後の取り組みについても協議した。活発な交流を継続的に行う為に今後は学生の航空運賃を各大学が負担するとの提案があった。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 本事業について広く周知する為に、短期派遣プログラムの教職員引率者が協定校訪問の際に現地学生に向けてプレゼンを行った。その中でホームページとFacebookページを紹介した事により、留学希望の学生から問い合わせが増えた。
- 受入プログラムに関しては、スペイン語が対応可能な事務職員とスペイン語とポルトガル語が堪能な教員が受け入れを担当し、到着した際にオリエンテーションを行った。長期受入学生は専門に關係する指導担当教員を配置した。
- 派遣プログラムに関しては、出発前に4回のオリエンテーションを行い、ビザや危機管理について説明を行った。さらに、現地語修得のサポートとして出発前にスペイン語・ポルトガル語の勉強会を開いた。
- 中南米に興味ある日本人学生と中南米留学生の交流の場を設ける為に月に二回ラテンアメリカンカフェを開催した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 本学の世界展開力強化事業ホームページにインターンシップの情報を追加した。
 - ▶ <http://tenkai.nodai.ac.jp> (4カ国語対応:日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語)
- Facebookページに長期派遣と長期受入学生が留學生活の様子が留學生活の様子が定期的に発信している。
 - ▶ <https://www.facebook.com/NodaiReinventingJapan/>

■ 特記すべき事項等

- 平成30年度長期派遣プログラムの合格者6名全員が世界展開力強化事業の短期派遣プログラム経験者であった。短期派遣プログラムに参加した事により卒業論文のテーマや進路が明確になり、中南米でしか得られない情報を収集するため、また中南米で就労経験を積むため、長期派遣プログラムに応募した。
- 平成29年度はチャビンゴ自治大学の灌漑学科から16名学生と教授1名を本学の生産環境工学科と協力し受け入れた。専門性に沿ったプログラムであったことから高評価を得る事ができた。次年度の受け入れも参加者数が増加することが決定している。